

新型コロナウイルス感染拡大による礼拝休止期間に対して 各主事・グループリーダーからのメッセージ

救主降生 2020年 5月 8日

主の平和がありますように。

東北教区では、新型コロナウイルスの感染拡大を防止するため、3月29日から信徒や求道者が一同に会する礼拝を中止しております。また、会議や教会委員会、行事等も同じく中止や延期となっています。

本来であればイースターの喜びに皆で与かり、春の暖かさとともに各グループ・委員会の活動も活発化してくる時期ですが、同じく新型コロナウイルスの影響により足踏みせざるを得ない状況です。そんな中、今回は各主事、各グループ・委員会のリーダーからメッセージを頂戴しましたので、皆様のもとにお届けいたします。

総務主事 浅原和裕

生涯に一度あるのかどうなのか？

大地震、大津波、原発大事故、大雨大災害そして今回の新型コロナ大感染と全部生涯にあるかないかの経験を今しています。改めて毎朝無事なことを主に感謝しています。感染症が世界を変えてきた歴史を見つめ、自分もその真ただ中に存在する自覚を持ちながら冷静に生きることを覚えます。「大〇〇」と苦しいものばかりですが、今後は「大成功」とか「大発展」というものも経験したいと思います。

事務所の拡張もできましたので心機一転今後の教区事務所の在り方を考えていきたいと思っています。

教育主事 司祭 八木正言

「あなたは健康のほうで頑張ってください。わたしは病気のほうで頑張りますから」。かつて、重い病気で入院されている先輩が語りかけてくださった言葉です。それは、たとえ病気が進行しても決して希望を棄てず、祈り続けるというわたしにできることをしますから、という意味が込められていたのだと確信しています。普段通りに生活できないこと、自粛...いろいろな制約がかかっている毎日ですが、この状況を克服した向こうにだけでなく、「今」「ここにも」祈り合うことによって希望があることを見出していきたい、そう思います。みなさんと共に。

宣教主事 司祭 越山哲也

皆さんで集まって礼拝が出来ない日々が続いています。こんな時だからこそ聖書のみ言葉をゆっくり読んでみてください。読む箇所は、毎主日の聖書箇所、朝・夕の聖書日課、もしくはご自身が読みたい箇所などでも良いと思います。聖書をゆっくり読むことそれ自体が祈りであり、日々の信仰生活の勧めとして推奨されています。一日の始まりでも終わりでもどの時間でもいいので実践してみてください。長く読む必要はありません。私たちの信仰の拠り所である聖書に触れる時間をどうぞ大切にしてください。

シャローム

仙台基督教会では、聖堂に集い、一緒に礼拝を捧げる事が出来なくなり、1月以上が過ぎています。この先未だ未だ続く気配です。自粛期間が終わり、聖堂に集まり礼拝を捧げる事が当たり前の日々になる事を、祈っています。

東北教区、信徒の皆様にかかれましては、お身体に気をつけてお過ごしください。

付け足しになりますが、我々の心の中に留め置きたい一文があります。それは、カミュのペストの最後の8行です。機会があれば是非お読み下さい。

財政主事 赤坂有司

公開の礼拝の休止が継続される中であっても、信徒・教役者の皆さまが教会活動の維持に心を砕いてくださっていることに深く感謝申し上げます。

休止期間の長期化により、各教会の実質的な収入の道が断たれている状況であるため、財政主事として、各教会統計表を基に教会維持可能期間の予測値を常置委員会に報告していますが、より直近の状況を把握して対応を検討する必要もあると考えられるため、各教会へご報告を求めました。ご協力をお願いいたします。

また、献金の献げ方については、3/27付の主教書簡を参考に各教会で稟議いただき、その旨を周知くださいますようお願いいたします。

心を一つにして、この厳しい期間を乗り越えましょう！

史料保全・編纂グループ リーダー 西 重明

主の平和

3/16から東北教区が礼拝・集会等を休止してから早くも1か月半を過ぎました。仙台基督教会は本日も10時半からWeb配信の聖餐式に与ることが出来ました。感謝です。しかし、一刻も早い平常への回帰を願っています。ともかく、感染しないようにしましょう。

史料保全・編纂グループの取り組み

① 歴史パネル「東北教区の宣教のふしぶし#4」の作成・配布

2003年加藤主教就任で終わっている前編（#3）の続編の作成が終了し、各教会・伝道所に配布することになった。

② 東北教区成立100周年記念誌の編集・作成

現在内容を「教会のあゆみ」「幼稚園のあゆみ」「教区のあゆみ」という3部構成とし、ミッション・ステートメントの実践の一助となるように編集・作成することで進めようとしている。

規則・規程グループ リーダー 司祭 涌井康福

弾圧化にあっても教会は密かに礼拝を守り続けてきましたが、現在経験しているような礼拝がひと月以上に渡って、しかも全国的に公開されないということは近代稀に見る出来事だと思います。1347年からヨーロッパを襲ったペストによるパンデミックに匹敵するような出来事かも知れません。この出来事に対しては、規則も規定も無力です。しかしこの経験を踏まえ「備える」ということは、このグループに課題ともなっていくのではないかと考えています。

奉仕職養成グループ リーダー 司祭 涌井康福

「礼拝に行きたい」皆さんがそう望んでおられることをひしひしと感じています。そんな時教会の「奉仕職」にある者に何ができるのだろうか。奉仕職、ことに教役者はこの事態に対して考え、できる限りのことを行っていることを、パソコンの画面を通しての教役者会でしたが、分かち合うことができました。（私自身は至らなさを痛感させられました）今回の出来事を通して、改めてどんな時にも仕え合うことのできる教会について考えさせられています。

教育・保育グループ リーダー 司祭 渡部 拓

今は特に子どもたちや青少年たち、それに関わる教育者の方々においては、とりわけ学ぶことが困難な時を過ごしていることと思います。

しかしこんな時だからこそ、神様の言葉を学ぶことに目を向けて貰えればと思います。聖書の一節、イエス様の言葉一つ一つに、今の私たちが学ぶべき「思いやり」「優しさ」が溢れているはずですから。

そしてグループとしての活動が再開された時には、その学びの実がそれぞれの場所で結ばれることを信じて、希望を持って生活して参りましょう！

十和田湖畔施設活用グループ リーダー 司祭 長谷川清純

4月1日、前任者の中山茂司祭からリーダーを交代しました。予定していた5月9日のグループ会議と、23日の境界線確定立会いとヴァイアル山荘開所式は延期としました。ここ数年来、ヴァイアル山荘建て替えに関する協議が続けられてきましたが、今年は、山荘の存在が宣教的に、社会的に、資金的に、また新型コロナウイルス感染症のパンデミックにある時代的に、と総合的な判断がなされる年になるように考えています。

広報グループ リーダー 福士恵美

広報グループでは休止期間中もホームページは変わらずの更新を、「あけぼの」の編集はメールや電話で相談をし、発行に努めてまいりました。現在皆さんにお伝えすべき事、この様な時に思いをわかちあえる事を模索しながら活動を続けております。行事等の報告や、各教会の動きが伝えられる時を望みつつ、今は新たな試みや課題に取りかかる準備の時間と考え、再び集える時を待ちたいと思います。

東日本大震災被災者支援プロジェクト リーダー 司祭 長谷川清純

4月1日、前任者の加藤博道主教からリーダーを交代しました。現時点では広畑お茶会、水曜喫茶、名取買物バスの定期的活動を休止、計画した6月の被災地巡りツアーも中止にしました。来年は東日本大震災10周年記念の年ですから、「忘れない」「備え」「祈り」を念頭に置いたプログラムを立案、計画し実施に向けて検討、準備していきたいと考えています。教区内にある原発関連施設についての学びもしたいとも考えています。

協働グループ リーダー 司祭 影山博美

昨年11月の教区会で、大田教区との友好関係を更に5年間延長する決議がされ、両教区の調印の日程を何時にするか、西原廉太司祭の主教按手式に愈 樂濬主教の来日される時はどうか等々考えているうちに新型コロナウイルス感染で両国とも行き来ができない状態になり、日程が決められないまま今に至っています。文書を送り合うことも考えましたが、まだ結論は出ていません。両国とも減少の兆しが見え始めているようですが、一日も早い収束を祈るばかりです。また、大田教区よりマスクの寄付の打診が来ていますが、実際の送付には時間がかかるとのこと。お申し出に感謝したいと思いますが、大田教区のヴァイタリティを感じます。

災害対応デスク 赤坂聖矢

またしても災害が発生してしまいました。東日本大震災被災者支援PJより備蓄マスクを譲っていただき、必要な教会・幼保園へ送付いたしました。まだまだ足りないのが現実です。

地震や豪雨等、天災の際にはボランティアの人手や募金が大きな助けとなりますが、今回の災害では一日も早い収束をそれぞれのご家庭で祈ることがなによりも助けとなり、また結果「助け合い」になるのだと思います。

皆で礼拝に集えないこと、お花見ができないこと、友人と飲みに行けないこと、家に籠りオンラインで我慢する毎日ですが今が踏ん張り時です。見せましょう、東北の底力を。

宣教強化資金運用グループ リーダー 島守信昭

3月28日のグループ会議は延期しました。2020年前期の申請はありませんでしたが、2019年度からの継続案件に対し、メールにて各メンバーと意見交換をして決定して参ります。暫くはこの状態が続くと思います。メールのやり取りの際は、会議と同様に相手の顔を思い浮かべ、内容がしっかりと伝わるように言葉を選び発信して参ります。苦境の中におかれている今ですが、資金の運用については、皆さまにご意見を伺いながら慎重に取り組んでいく所存です。

不動産活用グループ リーダー 島山秀文

不動産活用の具体的な取り組みはまだありません。この原稿を書くこの日、教会の墓地に行ってきました。木々の手入れをしていると、見知らぬ男性から声を掛けられました。聞くに、墓地はその方の日々の散歩コースであり、祭壇前の丸太の椅子が、小休止をする場所であるとのこと。数日前には墓地の桜が満開を迎えたと楽しそうにおっしゃっていました。

土地には、様々な人の想いやエピソードがある。それを強く感じた一日となりました。

教区展望会議 議長 柳沼芳裕

主の平和

日曜日に教会に行かない、行けないということが、こんなにも心許なく、言葉に出来ない不安を感じるものなのかと再認識しております。怪我や病気、その他の理由で教会に来れない方の気持ちもよくわかるようになりました。自分にとって、やっぱり教会は必要なんだ！そして、このような時代だからこそ、教会に出来ることがあるはず！そう思います。

この混乱が収まったら、また、皆さんで集まって神様を賛美しましょう！

ハラスメント防止・対策委員会 委員長 赤坂典子

当委員会の2020年度は「人と人が関わることによって生まれる『ハラスメント』の防止啓発活動」を行う研修会で始まりました。その後「ステイホーム」の生活に入り、「人との接触」が極端に減りましたが、そのことでより一層「人との関わり」の大切さを感じております。今は、一堂に会して祈りをささげることはできませんが、誰かを気遣う気持ちはきっと、それぞれに届けられると信じております。もう少しの間、「ステイホーム」を楽しみましょう！

